

「してない」じゃなくて「知らない」だけ。
SDGsをもっと身近に。



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



赤井彩夏・岩井星映・高橋愛奈
田口香里奈・橋原楓果
前地萌佳・山本紗世

はじめに

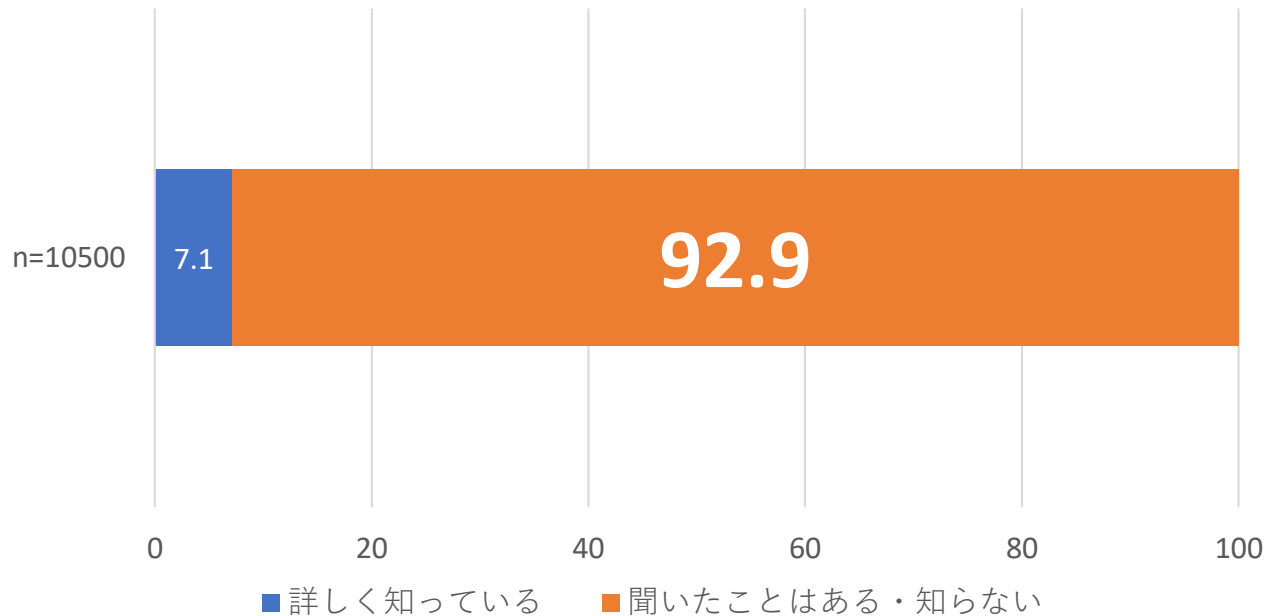
今回私達は、SDGs達成のためにすべきことを考えるにあたって、全国生活者の意識調査を参考にした。



現在、各国や企業はSDGsに対する取り組みを多数行っているが、実際の個人の認知度はどの程度であるのだろうか。
現状把握を交えながら、私たちの提案を提示していく。

現状

2019年のSDGsにおける認知度

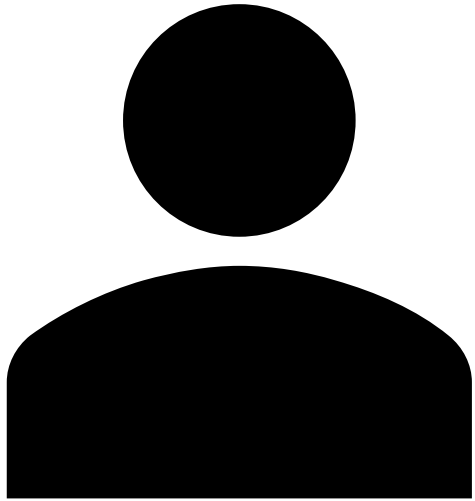


株式会社電通パブリックリレーションズの調査によると、世界では多数の国や企業がSDGsに対する取り組みを実施しているにも関わらず、一般人の

約93%がSDGsを詳しく知らないことが判明した。 ₃

なぜ人々はSDGsをよく知らないのか？

アンケートによる回答例



そもそもSDGsって何？

私達に直接関係あるの？

国の政策じゃないの？

実行したらどうなるの？

では、なぜ人々はSDGsをよく知らないのか。

SDGsを深く認知していない人に調査したところ、上記のような意見がでた。これらに共通することは、SDGsをどこか「**他人事**」だと思っている点である。以上の結果から、私たちは目標達成を行うために、**個々の意識変革**、

つまり、

当事者意識を高める 必要があると考えた。⁴

提案：SEMs

そこで私たちが起こしたアクションが、地域特化型SDGs、
通称 **SEMs**（エス・イー・エムズ）の提案である。
これは実際に大阪府守口市の協力のもと行われた。

S

（住みやすい）

E

（ええまち）

M

（もりぐち市）

SEMsとは、「住みやすい・ええまち・もりぐち市」
の略である。地域が実施しているSDGs活動や、
その地域ならではの魅力を見える化して発信をすることで、
人々がSDGsを **より身近に** 感じることが出来るよう工夫した。

提案：SEMs

守口市ではSDGsに対して以下のような活動が行われている



これらの活動やその特徴を簡単な**イラスト**と共に、それぞれ**六角形**のデザインにまとめた。

六角形にした理由は隙間なく組み合わせ、様々な形を作ることができ、人々の目につきやすい目立つ形だからである。

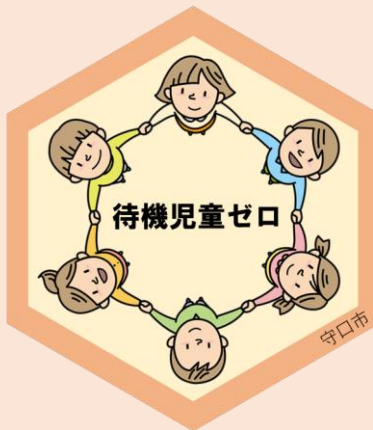
提案：SEMs



SDGsの11番「住み続けられるまちづくりを」について守口市は
監視カメラ1000台追加、女性の活躍支援などの活動を行っている。

提案：SEMs

4 質の高い教育を
みんなに



SDGsの4番「質の高い教育をみんなに」について守口市は
教育相談、児童教育の完全無償化などの活動を行っている。
私たちは守口市の教育支援制度が充実である点を「ええまち」
とし、SDGsの4番とつながると考えた。

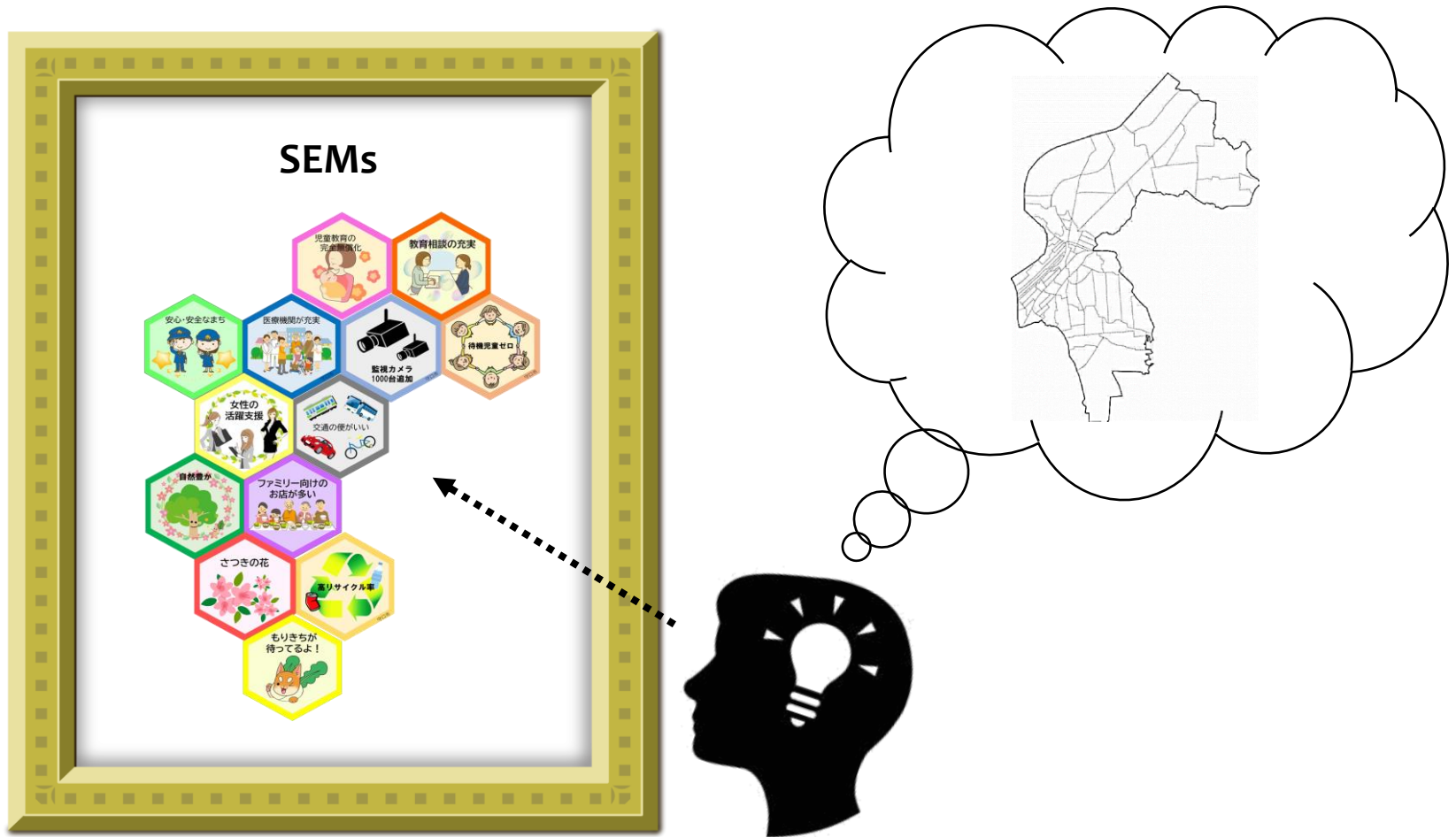
提案：SEMs



ここでは、守口市の**話題や魅力を盛り込む**ことで、より親近感を持たせた。コンテンツには、守口市の市の花であるさつきや守口市のシンボルキャラクターもり吉などが挙げられる。

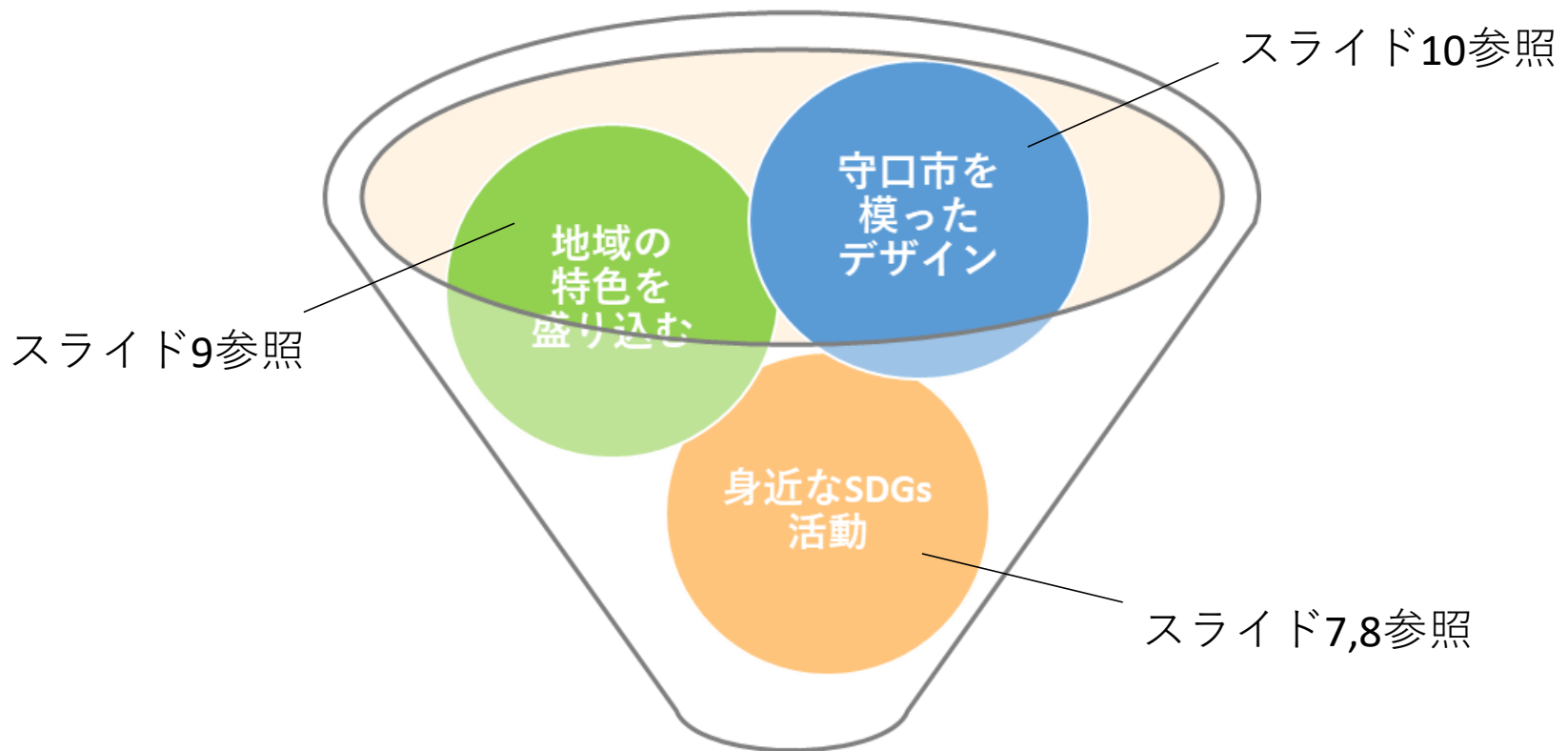
提案：SEMs

さらに、これらの施策を親しみのある市の形に形成し、堅苦しくなく受け入れやすい形で提示した。



提案：SEMs

これまで述べてきたように、下図のような3点の工夫をすることで、その地域の魅力のみならず、身の周りで取り組まれているSDGs活動が**より身近なもの**として一括に伝えることが可能になるのだ。



人々へのアプローチ 2019年11月3日

私達はSEMsを通じてSDGsの認知向上を図るため、2019年秋に市民への周知活動を行った。以下はその実施内容である。

①守口市民まつりにてSEMsブースを設立

②来場者に声かけ・SEMs冊子配布

③SEMsやSDGsに関する説明

④日常生活に溢れる「できること」紹介



- 約3万人が訪れる守口市民まつりのブースを借りて約6時間提示
- 理解を深めた上で、身の周りにある状況を用いて、課題解決のために**今、個々が「できること」**を分かりやすく説明

SEMs活動の結果

SEMs作成とそのプロモーションを含めた今回の活動は、以下3点の成果を生み出した。

- ☑ 多くの人々にSDGsを認知してもらう橋掛けとなる
- ☑ 市民各々がSDGsに関する当事者だと意識させる
- ☑ 自分たちに「できること」を考えさせる

これらの成果はSDGsの周知拡大に絶大な効果があったと言えるだろう。今回は守口市版地域特化型SDGsを作成したが、他の地域でも実施すれば更なる効果が期待される。

SDGsという大規模な目標だからこそ、

小規模な場で認知を高めていく必要性があるのだ。

今後の展望～SEMsをさらに広めていくために～

これまでは、私達が実際に実施したアクションについてお話してきたが、以降はそれに関連した今後の展望について述べていく。展望は大きく分けて以下の2つを紹介する。

1. 貼付用SEMsステッカーの作成・配布

2. SEMsのPR動画制作

今後の展望～SEMsをさらに広めていくために～

1. 貼付用SEMsステッカーの作成・配布

➤SEMsの各項目をステッカーとして作成し、配布することで市民に直接アプローチする。

活用方法

- 市民行事で配布する
- SDGs / SEMs活動を行う施設に貼付する
- SEMsを利用した特設イベント
(例) ステッカーを組み合わせて一つの巨大アートを作成。
ステッカーラリーを開催

→参加型イベントの開催により
SEMsを認識させ、
当事者意識を高める



安心・安全なまち



児童教育の
完全無償化



今後の展望～SEMsをさらに広めていくために～

2. SEMsのPR動画制作

- 守口市のシンボルキャラクター『もり吉』に SEMsの紹介をしてもらう動画を作成する。

子どもたちに人気のあるもり吉を出演させることにより、年代問わずSEMsを認識してもらうことが可能となる。

さらに、幼少期から**当事者意識を育てる**ことにも繋がる。

この動画は現在作成中！！



守口市シンボルキャラクター
もり吉

最後に

これらの地域に特化したアクションによって、

世界の問題を自分ごとに

することを可能にし、2030年にはすべての
SDGs項目が達成されるよう、これからも活動を続けます。

世界の問題を自分ごとに
もりきっず



参考文献

- 全国生活者1万500人を対象とした『2019年度ESG/SDGsに関する意識調査』

<https://www.dentsu-pr.co.jp/csi/csi-outline/20191024.html>

- 日本経済団体連合会「『Society 5.0 for SDGs』で新たな時代を切り拓く」

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2019/045.html>